

— 打合事項 —

A. 提出書類

1. 校舎 プランE案
2. 基本コンセプト
3. 新しい学習環境の参考資料

B. 打合事項

●計画案

校舎E案 3階建て 0+3+3のユニット
延床面積 約5,390㎡

- (特徴)
- ・前回建設委員会の意見を考慮し、廊下型とする。
 - ・アクティブラーニングに対応した学習空間の対応。
→普通教室の南側に多目的スペースを設ける。

※アクティブラーニングとは、「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」とされ、

- ①生徒が自分で課題を見つける
 - ②必要な情報を収集する
 - ③集めた情報を整理・分析する
 - ④気づいたことや考えたことをまとめて発表・表現したり、考えたことを行動に移したりする
- こうしたプロセスの学習をくり返すことである。

●基本コンセプト

『多様な教育に対応できる新しい学習環境と、豊かな心を育む生活環境』の創出』

- ①. 教育の多様化や、今後の学校教育の進展に対応できる施設
- ②. 心豊かな生き生きとしたこどもを育成するとともに、安全・安心を与え、ゆとりと潤いのある居心地の良い施設
- ③. 情報技術の進歩に対応できる施設
- ④. 防災の拠点となるとともに、地域の諸活動を支える機能を持つ施設
- ⑤. 環境や景観に配慮した施設

●新しい学習環境について

1. アクティブラーニングに対応した学習環境の整備
→クラスルーム+多目的スペース+ラーニングセンター+ラウンジ
このように、大中小のオープンとクローズの空間を用意することで、多様な学習環境に対応できるようにする。
 - ・クラスルーム+多目的スペース 中スペース～大スペース
→教室間は引き戸によりオープンとクローズ
 - ・ラーニングセンター 大スペース クローズ
 - ・ラウンジ 小スペース オープン
2. 読書空間としての図書室から、学習メディアセンター（ラーニングセンター）へ
→図書室は読書のための空間から、子供たちの問題解決学習を支援する学習センターとしての機能が求められており、これを中心に学校全体が構成されていることが必要である。よって、コンピュータの整備、校内LAN、インターネット環境の整備、蔵書のデータベース化、他校や市立図書館とのネットワークによる共同利用化などの情報化整備が必要となる。また、紙ベースによる図書から、デジタル図書への移行が進むと予想される。

●新しい学習環境の参考資料

【クラスルーム+多目的スペース 参考例】



(土浦小学校HP)

【ラーニングセンター 参考例】









